

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	保育士・幼稚園教諭の高度専門士を目指した教育プログラムの開発と研究		
法人名	学校法人 美芸学園		
学校名	こどもcom. 専門学校		
代表者	池 畑 雅 之	担当者 連絡先	竹内 亨

1. 事業の概要

最近、保育現場で幼稚園教諭・保育士のコミュニケーション能力の低下が言われている。保育者同士が、意見を交わしたり、交流を深めたりすることが、不得手になってきたり。親のクレームの理解や対応が不得手になってきている。また、こどもの発達理解等の知識がより高度なものが要求されるようになってきた。特に最近、様々な面から、乳幼児期の保育の重要性が語られてきている。

本事業では、現在の保育者養成課程プログラムに欠ける要素の一部として、3つのコアを考える。一つ目のコアは、人間形成開発プログラムをベースとした、クレーム処理や人間関係の問題解決の手段を学ぶことのできる、コミュニケーションスキル開発のプログラム開発を行う。二つ目のコアは、こどもの「あそび」体験学習し、フィードバックできるようなシステム化を行う。また、次世代環境を継承するエコ教育を視野に「あそび」の開発も行っていく。三つ目のコアは、特別支援教育を視野に入れた発達支援プログラムの開発を行う。若年層の問題行動には、広汎性発達障害が影響していると思われるケースが報告されている。これらの層は、早期発見・早期治療が必要である。本事業では、幼稚園教諭・保育士のライセンス取得のためのカリキュラムをベースに、これらの3つのコアを視野に入れ、さらにスキルアップする、新しいカリキュラムを構築することを大きな目的とする。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業の目的である、高度専門士カリキュラムは、達成できた。専門士取得カリキュラムでは、あそび・コミュニケーションの学習ができるカリキュラムを作成し、高度専門士取得カリキュラムでは、さらに特別支援教育に関連したカリキュラムが作成された。

②事業により得られた成果

本事業では、大きな成果としては、上記した高度専門士のカリキュラムを作成することができた。他に、このカリキュラムを利用した、ワークブック作成も行い、ボリューム的にはまだ少ないが、これからの課題と考えたい。また、現場のニーズ・アンケート調査より、子どもの発達障害について現場では困り、学んで行きたいことを得る。また、実践的なカリキュラムとしてフィールドワークの重要性を実証できたことも大きな成果である。

③今後の活用

専門士カリキュラムは、21年度から本校の「あそび学科」「こども学科」のカリキュラムとして実際に使用していく。保育とコミュニケーション・あそびと学ぶことの重要性の成果を上げて行きたい。

④次年度以降における課題・展開

専門士カリキュラムは、21年度より実施するが、早いうちに「リカレント事業」として、高度専門士カリキュラムを使い、履修証明制度を用いたり、単位取得プログラムを作成し、実施していきたい。将来的には、4年生の高度専門士を目指した、教育の場を構築していきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

現職の保育者のニーズ調査を行う。内容は、現在困っていることや、学んでみたいことについて調査を行った。本アンケートの目的は、結果をカリキュラムに反映していくことが大きな目的で、まなぶ方法等にもニーズを調査した。結果、現場のニーズとしては、「子どもの発達障がい」に関して問題に思っていて、親・職場のコミュニケーション、子どもの病気、心理学を学びたいとつづく。若い保育者の層からは、日々の保育(保育技術)等をもっと学びたいとの声もあった。これらのニーズをカリキュラム反映する。

②カリキュラムの開発

ニーズ調査の内容を踏まえ、現場ニーズを取り入れカリキュラムを構築する。大きく分け、専門士カリキュラムと高度専門士カリキュラムに特徴を持たせた。専門士カリキュラムでは、コミュニケーション・心理学を学ぶ「子ども学科」と、保育技術等に結び付く「あそび学科」の2つの特徴を持つカリキュラムを作成する。また、二つの学科の共通で、キャリア教育を構築する。高度専門士カリキュラムでは、特別支援教育を視野に入れ、アセスメント、医療、障害理解等を含み、マネージメントの能力の形成を考えグループワークや、情報処理についてのカリキュラムを構築する。

③実証講座

実践的なフィールドワークの実証として、本校で行なっている「子育てサロン」の立案・実施を行う。サロンに来ている親子との関わりは、良かったか。出し物はどうであったか。全校学生が学年を超えて、縦割りでグループをつくり、グループワークを行なった。サロンの実施は1ヶ月に1度行い、2～3ヶ月に1度担当がグループに回ってくる。結果として学生たちの中に良い上下関係ができ、学校全体がなごやかな雰囲気となった。これからは、上級生がリーダーシップ取れていくよう指導していきたい。

④その他